

編集 後記

21世紀最初の年もあと残りわずかとなってきましたが、皆様にとってはどのような一年でしたでしょうか。常にもましてページ数の少ない本号ですが、実験用中型動物の安定供給を目指す取り組みに関する経過報告が掲載されております。有害鳥獣駆除の目的で捕獲された動物、特にニホンザルを実験で使用することに對して反対意見が強まり、環境庁（当時）が鳥獣保護計画を改訂した経緯があります。もちろん「動物愛護」に異論はありませんが、動物実験はどうしても必要であり、現時点では他にかえがたいものです。実験動物反対グループの声だけがとおれば、動物実験は将来さらに制限されることが予想されます。決して霊長類だけの問題ではなく、生理学の実験に使われているすべての動物に影響を及ぼし得る問題ではないでしょうか。私たちとしては適切な動物実験

を行う一方で、その正当性・必要性を声を大にして主張していく必要があると思います。

悲しいお知らせがあります。千葉大学大学院医学研究院、神経情報統合生理学（旧第1生理学）の中島祥夫先生が11月24日に逝去されました。中島先生は平成6年より編集執行委員として日生誌編集に尽力されました。本誌61巻6号（1999年）、62巻2号（2000年）の編集後記に動物実験をめぐる現状に対する先生の憂慮をうかがうことができます。また60巻1号（1998年）の巻頭言では、21世紀の大学改革諮問と題して大学改革についてのご意見を述べておられます。この激動の大波のゆくえを見ずに去られたことは、さぞご無念であったことと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（小西真人）

*編集執行委員

編集委員

*金子 章道（編集幹事）（感覚）	青木 藩（呼吸）
小野田法彦（感覚）	河南 洋（自律神経、内分泌）
*工藤 典雄（運動、発生・成長・老化）	窪田 隆裕（腎・体液）
黒島 晟汎（環境）	*小西 真人（筋）
佐久間康夫（生殖）	*佐々木成人（運動）
高田 明和（血液）	菅屋 潤壹（栄養・代謝・体温）
*高松 研（神経化学）	土居 勝彦（心臓・循環）
*入來 篤史（感覚、運動、高次中枢）	成瀬 達（消化・吸収）
辻岡 克彦（循環）	*川上 順子（感覚）
村上 政隆（膜輸送）	福田 淳（感覚、高次中枢）
小山 なつ（HP担当）	吉岡 利忠（体力）

日本生理学会事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-30-10 布施ビル
TEL：03-3815-1624 FAX：03-3815-1603（勤務時間10：30～18：30）
E-mail：psj@qa2.so-net.ne.jp
URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/psj/